

シラバス

2025 年度

ファインアート科 1 年

学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科／ビジュアルデザイン科／研究科

ファインアート科
シラバス

■ ファインアート科 1 年 単位表

		成績項目	授業名	単位
前期	必修	素描Ⅰ 3u	デッサン基礎	1
			グリザイユ	2
	必修	造形基礎演習 6u	版画基礎	2
			イラストレーション基礎	2
			人物デッサン	1
			人物着彩	1
	必修	技法演習Ⅰ 4u	銅版画Ⅰ	2
			アクリル画	1
			テーマ制作	1
		必修	表現基礎演習Ⅰ-A 3u	シルクスクリーン基礎
ドローイングブック				1
カットイラスト				1
学科	必修		文章技法論	1
	必修		日本美術史 A	1
	留学生		日本語 B	2
	選択授業		英会話	2
小計				20

		成績項目	授業名	単位
後期	必修	表現基礎演習Ⅰ-B 5u	フレスコ画	2
			木版画基礎	2
			実践イラストレーション	1
	必修	表現基礎演習Ⅰ-C 5u	テンペラ画	2
			リトグラフ	2
			グッズ制作	1
	必修	視覚言語Ⅰ A 6u	絵画基礎演習	2
			コラグラフ/カーボラダム	2
			線画イラストレーション	1
			リソグラフ	1
学科	必修		視覚文明史	1
	必修		日本美術史 B	1
	選択授業		英語	2
小計				18
合計				38

ファインアート科 1 年

【前期時間割】

	1 限	2 限	3 限	4 限
月	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム
火	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム
水	—	文章技法	実技カリキュラム	実技カリキュラム
木	英語・日本語 B	英語・日本語 B	実技カリキュラム	実技カリキュラム
金	—	日美 A (北)	実技カリキュラム	実技カリキュラム
土	実技カリキュラム	実技カリキュラム	—	—

【後期時間割】

	1 限	2 限	3 限	4 限
月	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム
火	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム	実技カリキュラム
水	—	視覚文明史	実技カリキュラム	実技カリキュラム
木	英語	英語	実技カリキュラム	実技カリキュラム
金	—	日美 B (北)	実技カリキュラム	実技カリキュラム
土	実技カリキュラム	実技カリキュラム	—	—

学科科目：前期学科授業名：「文章技法論」 **担当教員：**太田克彦

授業期間：2025年4月9日(水)–9月24日(水)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1単位

学習目標：文章を書くことに対する苦手意識をまず払拭し、言葉を連ねる作業の楽しさを実感する。このトレーニングにより、言葉が美術制作をするときに、色や形や空間を構成するうえでより効果を上げていく役割を果たせるようにする。

授業内容：伝えるための道具として言葉を使う前に、しりとりや回文、川柳といったナンセンスやリズムによる言葉遊びから始める。与えられたキーワードで絵を描いたあとから作文するという方法により、想像力を広げていく。

学科科目：前期学科授業名：「日本美術史A」 **担当教員：**北 進一

授業期間：2025年4月11日(金)–9月26日(金)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1単位

学習目標：古代から中世までの日本美術は、東アジア文化圏の産物の一端として、そのイメージの源泉のほとんどを朝鮮半島や中国大陆に求めることができる。本講は、仏像・仏画・絵巻物・水墨画などを取り上げ、朝鮮や中国の作例と比較して、それらの造形（イメージ）の本質を具体的に追求してゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解釈という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に法隆寺金堂釈迦三尊像や玉虫厨子、広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像など飛鳥時代の仏教美術から始まり、奈良時代の興福寺阿修羅像や東大寺法華堂不空罽索観音像、平安時代の神護寺薬師如来像と東寺講堂諸仏、平等院鳳凰堂阿弥陀如来像、平安仏画、鎌倉時代の運慶仏などの仏教美術を通観する。その後、平安末期の信貴山縁起絵巻や鳥獣戯画、室町時代の雪舟・雪村などの水墨画を取り上げ、古代・中世の日本美術の本質を探ってゆく。

学科科目：選択学科(前期・後期)授業名：「英会話(共通)」

担当教員：Tim Whalen

授業期間：2025 年 4 月 10 日(木)– 2026 年 1 月 29 日(木)

授業時間：9：20–10：50/ 11：00–12：30

修得単位：4 単位

学習目標：芸術やデザイン分野で活躍しようと思っている人たちに役立つ表現および単語に焦点を合わせて基本英会話レッスン。

授業内容：海外の友達と会話するときや、芸術・デザインの世界の現場で英語を使うときでも、スムーズにコミュニケーションができるように、レッスンはフリートーク、リスニング演習、簡単なテキスト（プリント）の三つの部分に分けられています。リラックスした雰囲気の中で自分の英語力を伸ばしましょう。

学科科目：前期学科授業名：「日本語 B（留学生対象）」担当教員：メロス言語学院

授業期間：2025 年 4 月 10 日(木)–9 月 25 日(木)

授業時間：9：20–10：50/ 11：00–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：テーマに沿って、且つ他者の意見も踏まえて、自分の考えや経験などを適切な日本語でわかりやすく語れることを目指します。

授業内容：各回で定められたテーマに沿った会話活動を行います。必要に応じ、日本事情・周辺知識にも触れていきます。

学科科目：後期学科授業名：「視覚文明史」 担当教員：太田克彦

授業期間：2025/10/01(水)－2026/01/28(月)

授業時間：11：00－12：30

修得単位：1 単位

学習目標：制作上の技術は必須である。しかしそれはあくまでも必要条件。名作と呼ばれている作品には、すべて優れた発想と想像力がある。したがって作品内容をより高めるための発想力を身につける方法を学ぶ。

授業内容：古代から現代、そして未来までのパースペクティブを、視覚文化という次元から検討する。その分野は文学や演劇、ダンス、ファッションから音楽にまで広げ、それらが美術とどのように関わっているのかを学習する。

学科科目：後期学科授業名：「日本美術史B」 担当教員：北 進一

授業期間：2025/10/03(金)－2026/01/30(金)

授業時間：11：00－12：30

修得単位：1 単位

学習目標：近世以降の日本美術は、中世までの宗教色の濃い美術から脱し、世俗的で鑑賞性の高い美術へ変貌してゆく。本講は、桃山時代の障壁画や江戸絵画などを取り上げ、独自の色彩と形態を追求してゆく有様を見てゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解釈という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に日本絵画の黄金時代とされる桃山時代の絵画、特に狩野永徳と長谷川等伯の絵画などから始まり、俵屋宗達や尾形光琳の琳派絵画など江戸時代の絵画へ展開してゆく過程を探究する。その後、池大雅や与謝蕪村などの文人画、円山応挙などの写実派、伊藤若冲などの奇想派や浮世絵師の絵画を取り上げ、江戸絵画の本質を探ってゆく。

実技科目：前期実技授業名：「デッサン基礎」

担当教員：伊藤泰雅、工藤礼二郎

授業期間：2025 年 4 月 9 日(水)–4 月 12 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：デッサンの考え方に対する講義と鉛筆による静物デッサンを 2 枚制作する。

1 枚ごとに講評を行う。

授業内容：デッサンは「描く」ことから成り立つ絵画、版画、イラストレーションすべての表現媒体の根幹をなすものである。この授業では描くための技術力の向上と同時にデッサンに対する考え方を理解する。

実技科目：前期実技授業名：「グリザイユ」 担当教員：工藤礼二郎

授業期間：2025 年 4 月 14 日(月)–4 月 19 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：油彩画の成り立ちを知り、写実的表現の基本を理解、習得する。

彩画ひいては絵画の物理的構造や組成を理解することは再現的技術力の向上につながるるとともに今後の自己表現を紐解く礎となる。

授業内容：モノクロームの油彩画（グリザイユ）を伝統的な技法に基づいて制作する。

モチーフは人物写真を使用する。

実技科目：前期実技授業名：「版画基礎」 担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2025 年 4 月 21 日(月)–5 月 13 日(火)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：この授業では様々な版画の技法を体験します。版画で遊びながら「技法の力」を実感し、自分のイメージを成長させることをこの授業の最大目的とします。そして版画というフィルターを通すことで、自分の作品の別の顔に出会うことを目標とします。

授業内容：版画の技法から生まれる表現を体験しながら探る授業です。まずフロタージュから始まりモノタイプやシルクスクリーンなど、直接描くことでは得られない間接表現の魅力を学びます。さらに本校収蔵の葛飾北斎「神奈川沖浪裏」復刻版の版木をキーワードに、自由な表現による木版画へと展開させてゆきます。

実技科目：前期実技授業名：「イラストレーション基礎」 担当教員：須田浩介

授業期間：2025 年 5 月 13 日(火)–5 月 24 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：イラストレーションの基礎課程として、1 年次前期にしっかりと基礎力を身に付けます。デッサンや様々な技法に触れ表現する上でのしっかりした骨組みとなる授業と、作品表現するうえで重要なアイディアの柔軟さや閃きユーモアや瞬発力の部分を伸ばし拡張するための課題制作を行います。

授業内容：与えられたテーマに対してイラストを制作する上で個々の持つ個性を活かしながらより魅力的な作品表現となる様にテーマに対しての柔軟な捉え方や作品の見せ方コンセプトを自分の表現や世界観に昇華していく為の授業です。

実技科目：前期実技授業名：「人物デッサン」

担当教員：室井公美子、工藤礼二郎

授業期間：2025 年 5 月 26 日(月)–5 月 31 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：人物デッサンは、観察力、描写力、表現力、人体構造の理解、集中力、自己表現力を総合的に高める課題であり、技術向上に加え、人間的な成長も促します。

授業内容：人体デッサンでは、人体の構造やプロポーションをしっかりと理解し、正確さと表現力を兼ね備えた描写力を身につけます。骨格や筋肉についての解剖学的知識を学びながら、実際のモデルを描くことで実践的な技法を習得していきます。観察力を磨き、自分ならではのデッサン表現を追求することを目指します。これらの技術は、イラストなど多様な表現活動の基礎にもつながります。

実技科目：前期実技授業名：「人物着彩」

担当教員：室井公美子、工藤礼二郎

授業期間：2025 年 6 月 2 日(月)–6 月 7 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：この授業では、単に人体の再現的描写にとどまらず、それを取り巻く空間との関係性や近代以降の人体表現の在り方を様々な角度から検証する。

授業内容：人体コスチュームモデルを固定ポーズにより描画する。

実技科目：前期実技授業名：「銅版画 1」 担当教員：長島 充

授業期間：2025 年 6 月 9 日(月)–6 月 21 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。

授業内容：腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画 1 点(18×24 cm)を制作します。ドローイングにも感覚の近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。

実技科目：前期実技授業名：「アクリル画」 担当教員：勝倉大和

授業期間：2025 年 6 月 23 日(月)–6 月 28 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：アクリル絵の具を使用し、立体的に見える表現法を習得出来る。空間を楽しみながら描ける。

授業内容：

- ①木パネルにジェッソを塗布する。
- ②好きなカタカナを一つ選びゴシック体でレタリングする。
- ③レタリングした文字を補助線を使い斜めにレタリングし直す。
- ④立方体に合わせ奥行きの線を描く。
- ⑤出来た立体文字にワンポイント、好きな物を配置する。
- ⑥支持体に転写する。
- ⑦アクリル絵の具を使用し、明るい面、中間の面、暗い面、で影を色の濃さで表現する。

実技科目：前期実技授業名：「テーマ制作」 担当教員：今野樹里恵

授業期間：2025 年 6 月 30 日(月)–7 月 5 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因（文学）に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。

授業内容：文学にまつわる挿絵を連作（サイズに応じて3～5カット）で制作する。装丁や挿絵などで既存イメージができていて文学を、自分だけの表現方法で再構成すること。更に連作で制作することによって世界観を確固たるものとして表現することを学ぶ。

実技科目：前期実技授業名：「シルクスクリーン基礎」 担当教員：東樋口徹

授業期間：2025 年 9 月 1 日(月)–9 月 8 日(月)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わされて改良されたものです。枠に張った紗の目を不必要な部分は塞ぎ、画の孔（穴）の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る4版以上を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙8枚程度）制作。

実技科目：前期実技授業名：「ドローイングブック」 担当教員：室井公美子

授業期間：2025 年 9 月 16 日(火)–9 月 22 日(月)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：絵画のモダンテクニックを学び表現の幅を広げて行きます。また、モダンテクニックには偶然性が伴うもので、その偶然性を活かしつつ、意図した表現に近づけるための試行錯誤を通じて、柔軟な表現力を養います。

授業内容：モダンテクニックである、スパッタリング、ハッチング、デカルコマニー、スタンピング、フロッタージュ、コラージュ、ドリッピング、スクラッチなど、さまざまな技法を学びます。出来上がったドローイングを組み合わせ、加筆など行いながら、オリジナルのドローイングブックを作成して行きます。

実技科目：前期実技授業名：「カットイラスト」 担当教員：石山さやか

授業期間：2025 年 9 月 24 日(水)–9 月 30 日(火)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：誌面に載ることを想定し、文章に合ったイラストを作成します。

読者がイメージを広げられるようなイラスト、文章に合ったイラストとはどのようなものか考え、自分の作風を伸ばすことを目標とします。

授業内容：実際の小説を用意し、内容に合わせて挿絵を制作します。描いた絵は誌面にレイアウトします。何を描き、何を描かないのか、どのような画材を使うか、自分で考えることを大事にしながら制作します。

実技科目：後期実技授業名：「フレスコ画」 担当教員：杉崎匡史

授業期間：2025 年 10 月 1 日(水)-10 月 16 日(木)

授業時間：9：20-12：30／13：30-16：30

修得単位：2 単位

学習内容：油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を目一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。

授業内容：古典技法としてのフレスコ画技法を、模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋げられるのか考えてみる。

実技科目：後期実技授業名：「木版画基礎」 担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2025 年 10 月 17 日(金)-10 月 28 日(火)

授業時間：9：20-12：30／13：30-16：30

修得単位：2 単位

学習内容：油性木版画の基本技術の習得

授業内容：○油性木版画 1 版単色。モノクロームの大型版木に取り組み制作することで、木版画油性摺り技法の基本と魅力を体験します。版木サイズ 600×450mm

実技科目：後期実技授業名：「立体造形基礎」

担当教員：樋口恭一、直井朱里

授業期間：2025 年 10 月 28 日(火)–11 月 1 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：0.5 単位

学習内容：視覚には無意識に見落とされる死角が存在し、その代表例として「物体を一方向からしか見ていないこと」および「物体の表層のみを捉えていること」が挙げられる。これらの視覚的偏りに対する認識は、特に平面表現を主とする者にとって重要である。本授業では、立体物の再構築・再現を制作行為として行うことで、視覚の限界を自覚し、多面的かつ構造的な視座を獲得することを目的とする。これにより、表現者としての視覚の再構築を促す契機を提供する。

授業内容：本授業では、石粉粘土を用いて、与えられたモチーフ（縦に二分割されたパプリカ）を観察・分析し、写実的な立体作品を制作する。立体造形における基礎的な造形力、観察力、表現力の習得を目的とし、素材の扱いから着彩までの一連の工程を実践的に学ぶ。授業冒頭では、課題の意義と立体表現における視点の重要性についてオリエンテーションを行い、その後、粘土の基礎的な取り扱い方法および簡易工具の作成を実施。制作過程では、モチーフの構造と表面の質感を的確に捉え、最終的に水性絵具による着彩を通して、より実在感のある作品に仕上げることを目指す。

実技科目：後期実技授業名：「実践イラストレーション」

担当教員：関根秀星、須田浩介

授業期間：2025 年 11 月 4 日(火)–11 月 6 日(木)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：0.5 単位

学習内容：自分の好きな音楽を視覚的に表現するための発想力と構成力を身につける。

イラストにおける構図・配色・スタイルの工夫を通じて、情報伝達力と視覚的魅力を高める。

プレゼンテーションや講評を通して、他者の視点を取り入れながら自分の表現を客観的に捉え、改善につなげる力を育てる。

授業内容：本授業では雑誌の表紙イラストを制作することを通してテーマ性のあるビジュアル表現の基礎を学びます。今回は「自分の好きな音楽」を出発点に、実在の音楽雑誌の表紙を想定したイラスト制作に取り組みます。楽曲やアーティストの世界観、ジャンルの特徴などを視覚的に翻訳し、ラフ制作から描く内容のチェックを経て本制作に入ります。制作プロセスでは、ビジュアルコミュニケーションの理解を深めるとともに、自分の感性を他者に伝える力を養います。完成作品は簡単なプレゼンテーションを行い講評を通じて視点の多様性にも触れます。

実技科目：後期実技授業名：「テンペラ画」 担当教員：熊谷宗一

授業期間：2025 年 11 月 7 日(金)–11 月 22 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：中世美術からルネッサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写の関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。

授業内容：木材板の基材に地塗りをしてパネルを作る。

卵テンペラ（水性画材）をつくり、描画材として古典技法を応用して①模写や②自由な絵画制作をする。

①模写：学校側がセレクトしたテンペラ画の中から選ぶ。

②描きたい好きな顔あるいは動植物の絵を元に描く

実技科目：後期実技授業名：「リトグラフ」 担当教員：中村真理

授業期間：2025 年 11 月 25 日(火)–12 月 6 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4 版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

実技科目：後期実技授業名：「グッズ制作」 担当教員：花島百合

授業期間：2025 年 12 月 8 日(月)–2026 年 1 月 10 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1 単位

学習内容：身近なグッズを観察して、自分の作品の世界観や魅力をグッズという形で発信する方法を学びます。

授業内容：世の中にあるグッズを観察し、自分の表現を活かしたグッズの形を考案します。
絵の完成度を高めながら、商品としての見せ方や届け方を意識して作品を制作する授業です。

実技科目：後期実技授業名：「絵画基礎演習」 担当教員：工藤礼二郎

授業期間：2026 年 1 月 13 日(火)–1 月 24 日(土)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習内容：各自の取材に基づいた写真を使用もしくは現場での制作。「見る」「描く」行為を通して「風景」とは何かを思索する。

授業内容：「風景」をテーマにした絵画制作。写真使用可、但し各自の取材に基づいたオリジナルであること。

実技科目：後期実技授業名：「コラグラフ／カーボランダム」

担当教員：馬場知子

授業期間：2026 年 1 月 26 日(月) - 2 月 7 日(土)

授業時間：9：20-12：30／13：30-16：30

修得単位：2 単位

学習内容：自らの表現に必要な素材や技法を選び、それに基づく制作プロセスを考え実践する。版画ならではの制約や偶然性（自分の意図しない結果）を受容し作品を作り上げる柔軟性と創造力で自分の表現の幅を広げる。

授業内容：コラグラフもカーボランダムも物質感のある画面を作ることができる版画技法です。複雑な手順や技術を必要としませんが、各自の工夫で多様な表現が可能です。版表現の特性、素材と表現の関係を考え、実験的な制作をします。

実技科目：後期実技授業名：「線画イラストレーション」 担当教員：関根秀星

授業期間：2026 年 2 月 9 日(月) - 2 月 17 日(火)

授業時間：9：20-12：30／13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習内容：イラストレーションの基礎として「線」に焦点を当て、様々なモチーフを通して多くの線画を描きます。鉛筆やペンなどの基本的な画材を使い、線の強弱、質感表現、リズムなどを学びながら、表現の幅を広げていきます。

授業内容：身近なものから人物まで、幅広いモチーフを線のみで描きます。
画材によるアプローチの違いを意識して使い分け、狙いを持って取り組みます。

実技科目：後期実技授業名：「リソグラフ」 担当教員：Noy

授業期間：2026 年 2 月 18 日(水)-2 月 26 日(木)

授業時間：9：20-12：30／13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習内容：リソグラフ印刷機の使用方法の習得。また、リソグラフ印刷を使用した作品制作を通じて、自身の作品の新たな一面を模索、発見していく。

授業内容：近年、イラストレーターやデザイナーが作品制作に使用し、話題になっている印刷技法「リソグラフ」について学ぶ授業です。自身でリソグラフ印刷を制作できるようになるために、入稿データの制作から印刷まで全ての工程を実践していきます。

学校法人高澤学園

創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp